

JRECO 通信

No.35



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機

I. 東京都主催「第2回フロン対策検討会」について ～（一財）日本冷媒・環境保全機構 専務理事 高島章吉

10月4日に第2回東京都フロン対策検討会が「フロンの排出削減に向けて～フロン排出削減に向けた、今後の具体的な取組」と銘打ち、開催された。

まず、戸井崎 東京都環境局長のご挨拶があり、本会議は公開で行うことが宣言された。

次に座長より、「時間の関係で事務局からのこの場での回答はなしということで進めさせていただきま

す」と補足説明があり、続いて都庁からの説明と委員からの意見が出された。

第1回（7/25）フロン対策検討会の振り返り

1. 都の5年間の施策の検証と今後の施策の考え方
 - ① 全般
 - ・フロンのライフサイクルに応じた施策効果などの整理の必要性
 - ・ノンフロン機器の普及拡大という上流対策が最も重要
 - ・ノンフロン化が難しい機器があるので過渡期は漏えい対策を徹底し、低GWP冷媒を利用するのが現実的
 - ・古い機器の転換支援が必要
 - ② 使用時対策
 - ・遠隔監視に取り組む事業者の支援があると良い
 - ・漏えいの早期発見による経済的メリットを実感してもらうことが必要
 - ③ 廃棄時対策
 - ・充填回収業者の育成が重要
 - ④ 家庭用対策
 - ・家電リサイクルルート外の処分に対する対策の重要性
 - ⑤ 都庁率先行動
 - ・機器管理の重要性などの周知に取り組むと良い

⑥ 普及啓発

- ・家庭向け普及啓発が事業者の意識向上と同義であり重要
 - ・現下の異常気象がフロンも影響していることを発信
- #### ⑦ その他
- ・低GWP冷媒に入れ替えるレトロフィット推進の重要性

2. 都フロン排出量の算定について

① 全般

- ・冷凍分野と空調分野で冷媒や管理状況を踏まえて整理できれば算定の精度が向上

② 算定方法

- ・マクロとミクロの視点から算定精度を比較検証する方法もある

③ 業務用漏えい率

- ・都の現場立入りなどを踏まえた漏えい率の算定の一部にできれば良い

3. 第2回フロン対策検討会の説明と意見

① 今後の取組強化の必要性

「今後の取組強化の方向性（概観）」が示された。

【上流施策】 ノンフロン機器への転換（業務用）	○ノンフロン機器の導入促進 ○ノンフロン・低GWP冷媒への転換
【中流施策】 使用時漏えい対策（業務用）	○A I等を活用した効率的な立入検査 ○小型機器の早期点検・修理 ○遠隔監視技術の活用
【下流施策】 廃棄時漏えい対策（業務用）	○充填回収業者の技術力向上
家庭用対策	○家庭用エアコン処分状況の実態把握、周知徹底
都庁率先行動	○都有施設のノンフロン機器等の導入推進
普及啓発等	○社会的な機運醸成のための普及啓発

1) ノンフロン・低GWP冷媒への転換

都庁の案として「長期使用機器はフロン漏えいのリスクが極めて高い。冷凍冷蔵機器は中小企業では更新に係る経費が大きな負担となっている」と説明があり、下記の意見があった。

- ・ノンフロン・低GWP冷媒機器についてエネルギー効率を考慮して欲しい。
- ・フロン機器の漏えいリスクで使用年数が10年以上15年未満の機器でも更新が必要とは限らないので、単に使用年数ではなくGWPが高いものに集中した方が良い。
- ・ヨーロッパでは車両用の冷房にR290（プロパン）冷媒で日本のメーカーの機器を導入しようとしているので、都営地下鉄、都バスに率先して導入できないか。

2) 使用時漏えい対策

都庁の案として「AI等を活用した効率的な立入検査、AI等で漏えいリスクが高い機器を自動検出。小型機の早期点検・修理に関して、点検・修理した小型機器の追跡調査の実施と管理者向けに簡易点検のポイント、早期漏えい防止のメリットを普及啓発したい。遠隔監視のメリット他を管理者へ周知する」と説明があり、下記の意見があった。

- ・AI等を活用した効率的な立入検査は機器種別だけではなく業種にも応用できる。
- ・AIを導入した立入検査は時間が短く済み、件数も多くできる。
- ・全事業者に対して何%くらい立入検査できているか、されようとしているのか。
- ・遠隔監視も何%くらい採用してもらおうとしているのか。
- ・メーカーでは漏えい検知システムも出しているのにより早い段階で漏えい検知して漏れを減らす、このシステムにバックアップをお願いしたい。

3) 廃棄時漏えい対策

都庁の案として「機器ユーザーが客観的に技術力を把握できる取組を推進し、その事業

者を広くPRしたい」と説明があり、下記の意見があった。

- ・優れた技術力を持った事業者を評価することでより良い充填回収業者の選別が可能となる。
- ・回収装置の性能も考慮に入れた方が良い。
- ・充填回収業者の技術力向上は施工に関しての資格として冷凍空調施工技能士があるので（冷媒フロン）充填回収技能士という資格制度というのはどうか。
- ・ユーザー側に回収には費用と時間が掛かることも同時に普及啓発して欲しい。

4) 家庭用対策

都庁の案として「家庭用エアコンの処分状況のフロン回収できていないところの実態把握と業界団体を通じてフロン回収の必要性を広く周知徹底、都民への理解促進も実施したい」と説明があり、下記の意見があった。

- ・同じ建屋に業務用と家庭用があった場合に廃棄するときに違う法律で別々に対応するので手間が掛かる。都が業務用と家庭用を一体で引き受けて、家庭用はリサイクルに回す仕組みを作れないか。
- ・不適正ヤードが首都圏で問題になっているので環境省と都の関係者で情報交換が重要となる。

5) 都庁率先行動

都庁の案として「ノンフロン機器の選定や新技術の導入などについて、庁内で事例を共有して取組みを加速したい」と説明があり、下記の意見があった。

- ・R410A導入で人とお金が十分でない自治体でも取り組めることを一番発信力のある小池都知事がPRして欲しい。

6) 普及啓発等

- ・JRECO（日本冷媒・環境保全機構）ではフロン対策ができていない東証プライム上場企業を来年も表彰する予定である。

② フロン排出量算定方法の見直し

都庁の案として「業務用冷凍空調機器からの排出量算定方法は基本的に全国の排出量を



業務用の延床面積で按分して算定していたが適切に反映されていないので見直しを提案する。生産時は現行通り、設置時排出量は都道府県別充填量実績値での按分、使用時は機器整備時の都道府県別充填回収量実績値の按分、廃棄時は空調・冷凍・冷蔵別の指標による按分と都廃棄時の回収量で算定を考えている。取組強化の方向性は都庁の RaMS データや立入検査などの情報をもとに、漏えい率、回収率を分析の上、算定方法のさらなる見直し

しと検討していきたい」と説明があり、下記の意見があった。

- ・他の道府県との協調が必要。環境省に協力いただき、全国で、これでやってくださいとお願いできれば良い。
- ・充填量データは回収量データに比べて不正確な印象がある。
- ・フロンのマスフローの中で整合性が取れている検証の必要性がある。
- ・GWP 値で出ると良く解らないので実重量にしたら良いと思う。充填量・回収量は CFC・HCFC・HFC の区分で実重量であるがそれを GWP 換算する必要がある。
- ・このやり方である程度継続して時系列的評価をして効果が見えることもある。

次回は令和 7 年 3 月頃に開催予定ということで終了した。

II. 江戸・東京の歴史を訪ね歩きませんか（東上野から鐘ヶ淵：言問コース）

今回は南町奉行所与力 石川乙次郎が東上野から鐘ヶ淵を紹介させていただきます。

銀座線 稲荷町駅 3 番出口に煙草屋があり、その裏、清洲橋通りに面して永昌寺があります。

ここは講道館柔道の発祥の地 1882 年（明治 15 年）に嘉納治五郎がこの寺院の境内の 12 畳の道場に「講道館」を設立しました。

初めは先々代住職の瞬法上人の許しを得て本堂脇の座敷を練習場にしたところ、振動で仏さまが傾き、位牌が倒れるなど大騒ぎ。ついに別に 12 畳の道場を建てて、心身鍛練の道を講ずる館「講道館」を開いたというのが誕生の秘話。門弟には、「姿三四郎」の作者富田常雄の父常二郎、三四郎のモデルとなった西郷四郎もいたといわれています。



永昌寺を出て、清洲橋通りを渡り、北に 200m ほど行くと上野小学校の門の手前左側の植え込みの中に、我が国ゴム工業発祥の地とある黒御影石の碑が建っています。

天然ゴムは“ゴムの木”の樹皮に傷をつけ 流れ出る樹液を固めたものです。最初にゴムを利用したのは南アメリカのアステカ・マヤ文明で、ヨーロッパへはコロンブスが持ち帰ったといわれています。



ゴムの弾性を利用した製品が作られるようになったのは 19 世紀になってからで、グッドイヤーが加硫法を発明してからです。やがて自動車タイヤとして需用が拡がりました。現在では 合成ゴム全盛時代となり、天然ゴムの比率は 2%程度に低下しています。

日本における近代的ゴム工業は、明治 19 年（1886）に「土屋護謨製造所」によって加硫ゴムの生産に成功したことに始まります。（大正 6 年（1917）に「三田土ゴム工業」となり、この地に木造 3 階・地下 1 階の当時としては大規模な工場を建設し、テニスボール(軟式のゴムボール)・野球ボール(軟式)・消しゴムなどの新しいゴム製品次々に開発しました。

我が国ゴム工業発祥の地の北東 100m 位行き、左衛門橋通りに面し、源空寺があります。

源空寺所蔵の文化財

- ・伊能忠敬の墓（日本国史跡）
- ・高橋至時の墓（日本国史跡）
- ・谷文晁の墓（東京都旧跡）
- ・幡随院長兵衛の墓（東京都旧跡）
- ・高橋景保の墓
- ・銅鐘（台東区登載化財）



源空寺の銅鐘は、総高が 222cm、口径が 130cm に及ぶ大型のもので、均整のとれた堂々とした形態です。寛永 13 年（1636）に源空寺初代住職の道阿霊門上人が、3 代将軍徳川家光公の要請をうけ徳川家康公・秀忠公の菩提を弔うために鑄造させたもので、作者は椎名勝十郎義定という人物です。

銘文の中にある「大相国一品徳蓮社崇誉道和大居士」は徳川家康公のこと。「大相国一品」は死後に朝廷より贈られた官位、「徳蓮社～」は徳川家の宗旨浄土宗の戒名、「台徳院殿一品大相国公」は秀忠公の戒名の一部と官位です。また、家光公については「淳和・奨学両院別当、氏長者、正二位、内大臣、征夷大将軍、源家光公」とあります。「氏長者」は源氏の統轄者であることを示し、その他はすべて朝廷から任ぜられた位や官職です。江戸時代の代々の将軍は、正式にはこのような長い肩書をもっていました。

左衛門橋通りを南に行くと上野浅草通りに出ます、信号を渡って 100m で誓教寺に着きます。ここには葛飾北斎の墓があります。

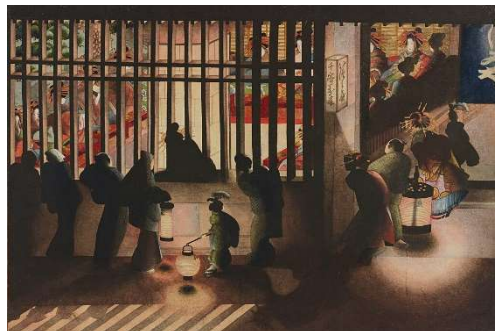
北斎は、宝暦 10 年（1760）9 月 23 日、江戸本所割下水（墨田区亀沢）に川村某（中島伊勢という説もあります）の子として生まれました。19 歳のときに、浮世絵師勝川春章の門に入り、本格的に絵画の修行を始めました。そのとき与えられた名前が、勝川春朗です。画号は春朗、宗理、画狂人、^{まんじ} 卍 翁など 30 種類あります。寛政 4 年（1792）に春章が没すると、勝川派を離れ、狩野派、土佐派、琳派や西洋画、中国画なども学び、独自の画境を開きました。



北斎は、奇行に富んだ人であり、住居を93回も移しました。嘉永2年（1849）4月18日、江戸浅草聖天町の長屋で三女の^{おえい}阿栄（^{おうい}葛飾應為）に看取られて90歳で没しました。

北斎の墓は、幕末まで北斎の父と合葬されていましたが、現在の墓は、後に他家の養子となっていた次男の崎十郎が建てたとも、その娘の白井多知が建てたとも言われています。墓石表面に「画狂老人^{北斎}墓」と大書し、右側面に辞世の句「ひと魂でゆく気散じや夏原」が刻まれています。

三女の^{おえい}阿栄（^{おうい}葛飾應為）の「應為」の画号は、北斎が「オーイ」と呼んだので、それをそのまま号としたとも、逆に北斎を「オーイ、オーイ親父ドノ」と大津絵節から取って呼んだからという説や、あるいは北斎の号の一つ「為一」にあやかり、「為一に応ずる」の意を込めて「應為」と号したとする説もあります。應為の画風は誇張した明暗法と精密描写に優れた肉筆画が残っています。



^{おうい}
葛飾應為『吉原格子先之図』

誓教寺を出て上野浅草通りを東に700mほど行くと隅田川に出るので北に200mで雷門前にある浅草文化センターに寄ります。8階のテラスから浅草が見渡せますので必ず、寄ってください。



浅草文化センター前の横断歩道を渡って雷門を見学しましょう。雷門は浅草寺の総門ですが、浅草の顔、ランドマークとなっています。実は、幕末の慶應元年（1865）の火事で焼け、昭和35年（1960）に再建されるまで、その姿はありませんでした。近代の明治・大正・昭和の戦後まで、浅草を訪れた人たちは雷門を知らなかったのかも知れません。仲見世を抜け浅草寺にお参りしましょう。



浅草寺は飛鳥時代の創建と伝わり、江戸・東京で一番の古刹で、江戸時代は天台宗寛永寺の末寺でしたが今は聖観音宗の総本山です。大正の震災、昭和の戦災により、江戸時代以来の旧地にある建造物は、本坊の伝法院と二天門（旧称：隋神門）のみとなりました。弁天山には江戸の町に時刻を知らせた「時の鐘」が鐘楼に健在です。

浅草寺の東に浅草神社がありますのでそこもお参りしましょう。^{あさくさ}浅草神社は浅草寺の創建に関わった土師真中知（はじのまなち）、檜前浜成（ひのくまのはまなり）、檜前竹成（ひのくま



のたけなり)を主祭神とし、東照宮(徳川家康公)・大国主命を合祀しています。檜前浜成・竹成の他のもう一柱の主祭神については諸説ありますが、浅草神社では土師真中知であるとしています。この三人の霊をもって「三社権現」と称されるようになりました。

浅草神社を参拝後、東に100mの位置にある台東区立花川戸公園内の姥ヶ池跡に寄ります。花川戸公園辺りにあった大池で、明治中期に埋め立てられました。江戸以前の昔に、浅茅ヶ原の一軒家で、娘が連れ込む旅人を石枕で叩き殺す老婆がおり、ある夜、娘が旅人の代わりになって死に、悲しんだ老婆が池に身を投げて果てたので、里人が姥ヶ池と呼んだとの伝説があります。公園には碑と小さな人工の池があります。



花川戸公園を出て隅田川沿いに北東に400mほど歩くと待乳山^{まつちやま}聖天がありますのでここも参拝しましょう。ここは聖観音宗浅草寺の子院・本龍院。待乳山は飛鳥時代に地中から湧き出た霊山で、天より下った金龍が守護したといい、その後、大干魃に見舞われたとき観音菩薩が聖天様の姿となり、人々を救ったのが聖天様の当山鎮座の起源と伝わります。本堂入り口の巾着(商売繁盛)と大根(夫婦和合)は、信心によるご利益を著わしたものです。



待乳山聖天を出て、隅田川に墨田公園内に「花の碑」があります。春のうらの隅田川のぼりくだりの舟人が・・・武島羽衣作詞・滝廉太郎作曲「花」。本碑は、羽衣自筆の歌詞を刻み、昭和31年(1956)11月3日、その教え子たちで結成された「武島羽衣先生歌碑建設会」によって建立されました。



公園横の言問橋を渡ると、すぐ右(南西)に三^{みつめくり}囲神社があります。ここは倉稻魂命(宇迦之御魂神)を祀っています。旧村社(現在はかつての小梅村にあたる地区にあるが、旧地は須崎村にあったと推測されています)。元、田中稻荷と称し、創立年代は不詳とのことです。伝によれば、近江国三井寺の僧源慶[要曖昧さ回避]が当地に遍歴して来た時、小さな祠のいわれを聞き、社壇の改築をしようと掘ったところ、壺が出土した。その中に、右手に宝珠を、左手にイネを持ち、白狐に跨った老爺の神像があった。このとき、白狐がどこからともなく現れ、その神像の回りを3回回って死んだ。三^{みつめくり}囲の名称はここに由来するといっています。



元禄6年(1693)、旱魃の時、俳人宝井其角が偶然、当地に来て、地元の者の哀願によって、この神に雨乞いする者に代わって、「遊(ゆ)ふた地や田を見めくりの神ならは」と一句を神前に奉ったところ、翌日、降雨を見ました。このことからこの神社の名は広まり、松阪の豪商・三井氏が江戸に進出すると、その守護神として崇め、越後屋の本支店に分霊を奉祀しました。

三囲神社参拝後、隅田川沿い北東に 300m 位行くと「墨堤植桜之碑」があります。墨堤の桜は享保 2 年、八代将軍吉宗公による植樹がその始まりです。明治 20 年（1887）建立のこの碑には桜の由来が書かれています。てん額は榎本武揚^{たけあき}の書です。

次に水戸街道を北東に 1k m ほど行くと東武伊勢崎線の東向島駅直結の東武博物館に着きます。東武鉄道は明治 30 年（1897）の設立以来、人とものを乗せ、夢と文化を運ぶネットワークとして、今日まで発展してきました。

その創立 90 周年を記念して、平成元年（1989）5 月 20 日にオープンしたのが、「東武博物館」です。ここでは、身近な交通機関である鉄道やバスに親しみ、理解していただけるよう、館内を 8 つのコーナーに分けて構成。東武鉄道の歴史や文化・役割を紹介しています。郷愁を誘うダイナミックな蒸気機関車をはじめ、実物車両や記念物などの貴重な資料を展示している一方で、交通



のしくみを実際に見て、触れて、体感できるようシミュレータや実物機器を設置しました。また、博物館の真上を走行する車両を至近距離から観察できる、立地を活かしたコーナーも設けた、まさにリアルタイム感覚で楽しめる体験型のミュージアムです。平成 21 年（2009）5 月には開館 20 周年を迎え、6 か月ほどかけて展示車両の追加や展示物の更新等を行い、平成 21 年（2009）7 月 22 日にリニューアルオープンしました。



東武博物館を見学後、案内板に「向島百花園はこちら」とありますので、そこに向かいます。向島百花園は東京都墨田区東向島三丁目にある都立庭園で、江戸時代に発祥をもつ花園です。みどころは早春の梅と秋の萩です。隅田川七福神の発祥の地であり佐原鞠塙（さはらきくう）が所有していた、ともいわれる「福祿寿」が祭られています。



向島百花園の土地は、江戸時代は武蔵国葛飾郡寺島村で、文化（1804～1818 年）初年頃の初代広重の「隅田つつみ花さかり」「四ツ木通引曳道」「東都木下川田圃」などの図で想像できます。この土地の住人は「多賀屋敷」と言い、幕臣多賀氏の所領で、百花園の名碑を説明した『園のいしふみ』には「多賀屋敷の事は坂田老人の記に豪民とあれど、徳川家旗本の士なるよし」とあります。多賀氏は近江国多賀荘を領していた京極家の一族で、多賀新左衛門常則は浅井長政に仕えた戦国武将で、羽柴秀長の幕下となり、その子吉左衛門常直も豊臣家に仕え、後に徳川家康公に招致された。多賀氏の初代は常直の四男角左衛門常次で、徳川秀忠公の旗本として大番組に入り、葛西の寺島、請地、渋江、川端の四村を知行地としました。多賀氏の 4 代目主悦は享保元年（1716）没し多賀家は四代で滅んでいます。多賀屋敷が文化年中まで明屋敷だったことは裕福な旗本で、自費で買取った私有地でした。

百花園を見学後、明治通り沿い北西に 200mほどで白髭神社に着きますのでここも参拝しましょう。白髭神社は天暦 5 年

(951)、元三大師良源が滋賀白髭神社を分霊しこの地に祀ったと伝えられています。蓮花寺（東向島 3 丁目 23-17）を別当とし、白髭大明神と呼ばれていました。

明治 40 年（1907）、同社の南にあった諏訪神社を合祀して祭神^{たけみ なかたのかみ}建御方神を合わせ祀っています。

参拝後、都道 461 号を北に 600mほど行くと東白髭公園に着きます。この奥に隅田川神社があります。この神社の創建については不詳ですが、言い伝えによれば源頼朝公が創建したものと伝えられます。もとの名を浮島神社といい、古くは水神社、水神宮、浮島宮などとも呼ばれ、「水神さん」として親しまれてきました。明治 5 年（1872）、現社名に改名しました。地域の鎮守神であるとともに隅田川一帯の守り神でもあり、水運業者や船宿など、川で働く人たちの信仰を集めたほか、「水神」の名から水商売の人々にも信仰されました。

都道 461 号に戻り北に 100mほど行くと榎本武揚像があります。榎本武揚は幕末から明治にかけて活躍し、晩年は向島で過ごしました。本銅像は大正 2 年 5 月、旧幕臣のち代議士江原素六などの発起により、府議員本山義成らが中心となって建立されたもので、彫刻家藤田文蔵の秀作です。

これで今回の歴史訪ね歩きは終わりです。東武伊勢崎線の鐘ヶ淵駅は近くなので電車に乗って東京スカイツリーを見学して帰るのも良いでしょう。では、まったねー。



Ⅲ. 《鈴木賢志のタイ国(シラチャ)駐在記 第一回 ～赴任からアパート決定まで～》

今回 この話をいただいて、一番不安に感じたのは写真等が極めて少ないことである。もう 20 年以上前の話になるので、記憶も斑になるため真っ先にやったことは写真や資料等々をひっくり返し、思いつく記憶のキーワードを並べ直し、何とか何回分かの内容のボリュームも見えてきたので 6 回ほどに分けてタイ駐在の時の話を書かせていただくことにする。20 年前の観光ガイドのようになってしまうかもしれないがご容赦願いたい。

私の海外赴任先はタイの中ほどに位置するレムチャバン工業団地にある、空調用圧縮機の生産販売会社で、設立から 15 年ほどが経っていた。この工場は当時 49 か国 150 顧客ほどを相手に商売をしており、タイには多数の工業団地があったが、ここは深海港といわれるレムチャバン港の近くにあり輸出をメインとする当工場には最適な工業団地であった。入社以来 15 年間、静岡のマザー工場では空調用圧縮機の開発・設計に従事していた関係上、こちらの工場には技術部長というポジションで赴任した。

赴任期間は 2003 年 4 月から 2008 年 2 月までの約 5 年間だったが、今思うとこの時期は世界的には安全というか穏やかな時期だったように思う。ただ一つだけ世界を騒がせた案件としては SARS が流行った年だったことである。最近の新型コロナウイルスほどではなかったが、当時は結構な騒ぎとなり、4 月赴任組の中では 7 月頃まで延期になったメンバー(欧州赴任組だったと記憶している)もいたらしい。当時の様子を調べ直すと、『2003 年 3 月 12 日に WHO から「グローバルアラート」が出され、同年 7 月 5 日に終息宣言が出されるまで、32 の地域と国にわたり 8,000 人を超える症例が報告された』とある。

そんなバタバタもあったが、2003 年 4 月 7 日に無事バンコク・ドンムアン空港(当時スワンブーム空港はまだ無かった)に一人降り立った。家族帯同の選択肢もあったが、子供たちはあまり乗り気でなさそうだったので、家族は自分の実家近く(横浜)にアパートを借りて日本に残り、一人晴れて単身赴任となった。

住居はバンコクではなく、他の駐在員と同じように『シラチャ』というバンコクから南へ 100Km ほどの街に住むことになり、職場までは車で約 20 分ほどの距離である。



図 1

ここでタイ国内とバンコク、シラチャ、レムチャバン、パタヤの位置関係の確認と紹介をしておこうと思う。ご存じのようにタイは約 51 万平方キロメートルという日本のおよそ 1.4 倍の広さと独

特の形をした国土を持つ国である。バンコク、シラチャ、レムチャバン、パタヤは(図 1)、(図 2)に示すように国土のほぼ中央に位置している。バンコクは言わずと知れたタイの首都で、正式名称は「クルンテープ・マハーナコーン～」と続き、タイ語で 11 単語 121 文字とのことで、世界一長い首都名称としてギネスブックにも登録されているらしい。現地の人々は“バンコク”とは言わず“クルンテープ”と呼び、『天使の住む都』という意味らしい。また、パタヤはベトナム戦争時の兵士の保養場所として開発が進み、今では有名な歓楽街・リゾート地となっている。

私の行動範囲はほぼバンコク～パタヤ間に収まってしまい、遠出といっても図 1 の範囲程度で、北にはチェンマイ、チェンライ、南ではプーケット、サムイといった有名な観光地があるが、結局行かずじまいで終わってしまった。帰任の時にタイ人の総務部長にこの話をしたら『あなたタイで 5 年間何をやってたの！』とあきれられてしまったのを覚えている。

「シラチャ」というとシラチャソースのほうが有名かもしれないが、チョンブリー県のシラチャは、タイランド湾の東に位置しており、バンコクから続くスクンビット通り（国道 3 号線）が町の中心を縦断している。バンコクを抜け、いくつかの街を抜けると、チョンブリー、シラチャ、レムチャバンを経由してパタヤとなるが、シラチャ以南に行く場合は一般道を使うことはほとんどなく、高速や motor-way を利用し、バンコクからシラチャまでが 1 時間半ほど、そこからレムチャバン、さらにパタヤまでが各々 20～30 分といった道のりとなる。



図 2

もともとシラチャは小さな漁村だったが、1990 年代に入り周辺の工業地帯への日本企業の進出が活発化し、そこで働く日本人のベッドタウン化が進むとともに日本人向けのサービスを提供する飲食店をはじめとする店舗が増えてゆき、今では日本人学校などもあり多くの日本人が生活する街となっている。当時から絶対数ではバンコクの比ではないが、日本人の人口密度ではシラチャが一番で 5,000 人くらいはいるだろうといわれていた。ネット調べてみると、「2023 年現在タイの日本人の人口は約 7.2 万人で、バンコクの 5.1 万人に次いでシラチャが 5,630 人」とあり、2021 年の 6,500 人ほどをピークにここ数年は減少傾向が続いているとのことである。

ちなみにシラチャ(シーラチャ、シラチャーとも呼ばれる)の名前の由来は、サンスクリット語で吉祥なる王を意味するシュリーラージャ(Sri Raja)のタイ語訛りとする説が有力である。

さて、タイについた初日(4/7)は深夜だったこともありバンコクのホテルへの投宿だったが、翌日シラチャに移動し、アパートの契約等手続きに走る。実は既に3月の時点で1回訪タイしており、その時住居の目星をつけておいたので2、3の候補の中から選ぶだけの作業だったが結構キツかったのを覚えている。というのも4月中旬は水かけ祭りとして有名なタイ旧正月の“ソンクラン”の時期。この時期タイは1年で一番暑い時期を迎える。今でこそ温暖化で日本の夏も暑いが20年前はさすがに4月のタイのほうが暑かった！そんな中での住居探しや契約や引越しといった作業は、予想以上にキツかったのを覚えている。



写真1 トゥクトゥク

シラチャの街は前にも書いたように日本人が多く、街自体もコンパクトにまとまっており、トゥクトゥクで十分カバーできる範囲だったので確かに住みやすかったと思う。

街の中心にはロビンソンデパートと呼ばれるショッピングモール(日本のイトーヨーカドーの大型店舗)のようなものもあり、街なかには町中華のような食堂や居酒屋、焼き肉、カラオケなど基本的なものは揃っていた。



写真2 ロビンソンデパート



写真3 ロビンソン内部

ちょっと高価だが2、3件の店では日本製の加工品は売られており、シラチャに無ければバンコクに買い出しに行けばほとんど入手できるので、買い物に関するストレスはほぼ無かった。ただ、生鮮品は、見たことがない魚とか、同じ野菜でも(日本とは)大きさと形が違う野菜が店先には並んでいた。こちら辺の話の残りは別の回にさせていただく。



写真4 シラチャの路地

第一回の今回はここまでとし、次回以降 下記のキーワードを追いながら繋げていきたいと思う。ただし、記憶と写真、内容の関係上 順不同や欠落・追加の発生はご容赦願いたい。

～ 次回以降のキーワード ～

- ・日々の暮らし、床屋、休日の伊勢丹、クリスマスバスケット、ロイクラトン
- ・職場の風景、深夜品質パトロール、おかまショー、出張者のアテンド、冠婚葬祭
- ・バンコクのルーフトップバー、ホアヒン、ガンチャナブリー、アユタヤ
- ・健康診断、日本大使館、新旧の空港、不動産登記
- ・2007年クーデター、スマトラ地震

To be continue 次号へ続く

お楽しみいただけましたでしょうか？

JRECO 通信は不定期刊行ではありますが、次回もご期待願います。

JRECO 通信のバックナンバーはホームページに掲載中

https://www.jreco.or.jp/jreco_news.html